

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	幼児理解						授業形態		講義	
科目コード	750039	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	藤本 朋美								ICT活 用	○
授業概要	本科目は、保育者として幼児一人一人の内面や発達を理解し、それに基づいた援助を行うための実践的力量を養うことを目的とする。幼児理解は、日々の関わりや観察・記録を通して行われるものであり、子どもの言動の背景や意味を読み取ることが求められる。本授業では、乳幼児期の発達に関する基礎的理解を踏まえ、具体的な事例や実践記録をもとに幼児の内面理解を深めるとともに、それに基づく援助や評価の在り方について検討する。 あわせて、保護者との連携や小学校との接続といった広がりの中で、幼児理解の意義を総合的に捉える。									
関連する科目	（履修前）保育内容総論、発達心理学 （履修後）教育実習（幼稚園）、教職実践演習									
授業の進め方 と方法	講義と演習を組み合わせ、主に事例検討を中心に進める。各回の基本構成は以下の通りとする。 1) 事例に基づく個人での考察（既有的知識・経験の活用） 2) グループディスカッションによる多面的理解 3) 講義による理論的整理（観察・記録・解釈・評価の視点） 4) 自己の考えの再構成 講義資料提示および課題提出はUNIVERSAL PASSPORTを活用する。									
授業計画 【第1回】	幼児理解の意義 保育における幼児理解の位置づけ									
授業計画 【第2回】	乳幼児の発達理解 発達の基本と個人差									
授業計画 【第3回】	幼児理解と援助の基本 理解と援助の相互関係									
授業計画 【第4回】	幼児理解と保護者との連携 家庭との協働による理解									
授業計画 【第5回】	遊びと幼児理解 遊びを通した内面の把握									
授業計画 【第6回】	観察と実践記録の方法 エピソード記録の基礎									
授業計画 【第7回】	記録の分析と解釈 行動の意味を読み取る									
授業計画 【第8回】	トラブル場面における幼児理解と援助 対立の背景と対応の在り方									
授業計画 【第9回】	自己と他者の関係の形成と幼児理解 相互作用の中での育ちの理解									
授業計画 【第10回】	葛藤経験と発達 内面の育ちとその意義									

授業計画 【第11回】	配慮を要する幼児の理解 多様性への視点と支援
授業計画 【第12回】	幼児理解と評価 理解に基づく指導と評価
授業計画 【第13回】	幼児理解と環境構成 環境を通した理解と援助
授業計画 【第14回】	幼小接続と幼児理解 学びの連続性の中での理解
授業計画 【第15回】	総合的考察と振り返り 実習事例等をもとにした統合的理解
授業の到達目標	1. 乳幼児期の発達の基本と個人差について理解できる。 2. 幼児の言動や表情の背景にある思いや意味を捉える視点と方法を理解できる。 3. 観察および実践記録をもとに幼児理解を行い、適切に解釈することができる。 4. 幼児理解に基づいた援助や指導、評価の在り方について説明できる。 5. 保護者との連携や幼小接続の視点から幼児理解を多面的に捉えることができる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	授業で提示された次回テーマに関連する事例や具体場面を各自で収集・整理し、自分なりの幼児理解を試みる。また、必要に応じて関連文献を読み、問いを明確にして授業に臨む。(1時間程度)
授業時間外学習【復習】	授業で扱った事例や記録について再検討し、講義内容を踏まえて解釈を更新する。自らの理解の変化を言語化し、幼児理解の視点の深化を図る。(30分程度)
課題に対する フィードバック	小テスト、レポート等の課題については、評価後に全体への講評を行い、理解の到達状況や改善のポイントを共有する。 また、「学習の記録」に見られる代表的な問いや気づきを紹介し、授業内容との関連付けを図る。
評価方法・基準	1) 学習の記録（毎回の振り返り） 20% 2) レポート等の課題、小テスト（記録・事例分析等） 30% 3) 最終試験 50%
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
参考書	必要に応じて適宜紹介します。
備考	